

令和6年度指導教諭による「授業力アップ講座」③④

本年度も指導教諭の優れた授業及び解説・講話、実技講習指導等を広く公開し、授業改善、指導力向上等を図る講座を開設しました。今号では、前号に続き、2つの授業力アップ講座を紹介します。

9月9日(月) 奥州市立水沢小学校
第5学年 国語(書写):「組み立て方(竹笛)」

授業者 大坂下 勝江 先生

提案授業

児童が「竹」「笛」の字形を比較して、上下の部分の組み立て方の原理・原則に気付き、それを生かして毛筆で書く授業でした。

アニメーションを活用し、上下の組み立て方の原理・原則に気付かせたり、動画を用いて筆使いや字形を確かめさせたりするなど、ICTを効果的に活用することで、児童が部分の組み立て方を理解して、正しく書くことに繋がっている授業でした。原理・原則を意識し、穂先の向きや筆圧などに気を付けながら書く児童の姿が見られました。



研究協議

部分の組み立て方の原理・原則を捉えさせることの大切さについて話題となりました。このことについて、大坂下先生は、視覚的にしっかりと捉えさせ、原理・原則を意識して批正を行い、自己の課題を改善しようとする姿を求めたいとのことでした。

また、研修者が実際に教具を使いながら指導のポイントを学んだり、日々の授業で悩みや困り事に対する改善方法を教えていただいたりし、学びを深めることができました。

👉 大坂下先生の授業から学ぶ 国語(書写)の授業のポイント!

- ◆部分の組み立て方の原理・原則に気付かせること。
 - ・視覚的に捉えさせる。ICTの活用も有効である。
- ◆穂先の向きや筆の上下の動きを実感させること。
 - ・「トン、スー!」という言葉で、リズムとイメージをつかませる。

参加者の声(一部抜粋)

- ・「筆圧」というキーワードを徹底していた。児童に実感的に字形を捉えさせる工夫が勉強になりました。
- ・書いた後に、どの部分が難しかったのか、どこがうまくいかなかったのかなどを振り返り、課題を明確にすることが大切だと感じました。
- ・利き手、穂先の意識のさせ方、軸など協議の中で改めて気付くポイントがあり、日々の指導に生かして行きたいと思いました。

9月17日(火) 奥州市立水沢南小学校
第6学年 算数:「データの特ちょうを調べて判断しよう」

授業者 高橋 美樹子 先生

提案授業

学級のメディア時間について、実際に児童からデータ(生データ)を取り出し教材化した授業でした。

児童はこれまで学んだ度数分布表や代表値を生かして、自分なりに分析を行い、クラスの傾向について発表していました。

生活と結びついた内容であることや、実際にクラスからアンケートを取った内容であることから、意欲の高まりに繋がっていた授業でした。



研究協議

分析する際に子どもたちが注目する代表値等の根拠の大切さについて話題となりました。このことについて高橋先生は、データから見える様々な気付きをたくさん取り上げることで、分析の視点や根拠をもたせることに繋がりたいとのことでした。

「算数が楽しいと子どもが思える授業のためには、授業者が楽しく授業を進めること。」と協議の最後に話された高橋先生の言葉が印象的でした。

👉 高橋先生の授業から学ぶ 算数の授業のポイント!

- ◆ねらいをもって単元をデザインすること。
 - ・習ったことを実際に活用させる場面の設定
 - ・より見方・考え方を深めさせたい場面の設定

参加者の声(一部抜粋)

- ・授業の随所でも感じましたが、わからないことをわからないと言える、間違っても大丈夫という雰囲気 genuinely 大切に思いました。
- ・どんな力をつけさせたいか、つけた力をどう活用させたいかを考えて単元構想をしているところが勉強になりました。
- ・普段の生活と結び付けて、子ども達が自分事として捉えられる授業づくりの大切さを感じました。